



## 葛尾城跡から望む坂城町

第27回全国山城サミット上田・坂城大会の開催が令和2年10月31日（土）～11月1日（日）に予定されています。

坂城町には多くの山城跡があります。葛尾城跡は坂城を代表する山城跡のひとつです。

### ◆主な内容◆

- 令和2年度公民館体制 ..... 2～3P
- ふるさと探訪PART107 ..... 4～6P
- 受講者募集のお知らせ、500字リレートーク ..... 7P
- お知らせ、館説 開敵 ..... 8P

## 令和2年度教育委員会イベント・講座等中止延期等一覧

4月に発行したまなびの玉手箱の下記の各種イベント、講座については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、中止または延期とさせていただきます。

参加を予定されていた方にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、イベントごとの詳しい情報につきましては、文化センター生涯学習係までご連絡ください。

※今後の状況により変更となる場合があります。

日時	行事名	対応
4月から開講予定	公民館文化講座	7月へ開講延期
4月から開講予定	各種としょかん講座	後期へ延期
5月から開講予定	リトミック教室	7月へ開講延期
5月から開講予定	キッズスポーツ教室	7月へ開講延期
5月から順次開講予定	さかきふれあい大学専門講座	6月までの講座は中止、一部後期へ延期
5月から順次開講予定	長野大学講座	前期中止
6月19日（金）	格致学校講座	後期へ延期
6月27日（土）	さかきふれあい大学教養講座「真田の物語」	中止
7月4日（土）	第42回納涼音楽会	中止
7月17日（金）	格致学校講座	後期へ延期
7月19日（日）	町民ゴルフ大会	中止
8月15日（土）	第65回成人式	開催時期検討中

## 館説 開敵

新緑の美しさが目にしみる季節になりました。まわりの山々を見回すと、一つとして同じ色がなく、さまざまな緑系の色で埋め尽くされています。木々の息吹を感じます。

山々の緑を見ていると、緑系の色には何種類ぐらいの色があるのだろうかという疑問が浮かんできました。名前を知っている緑系の色は、黄緑色、若草色、萌黄色、浅黄色ぐらいいしかありません。紙の色見本などを見ても、緑系の色は十種類ぐらいいしかありません。いろいろと調べてみると、和色（日本古来より伝わる色）として、緑系の色は、八十一種類あるそうです。すごい種類がありますね。

和色とは、四季の移ろいの中に美の心を生み出した様々な伝統色のことです。日本では古来より暮らしの中に多彩な色合いを取り入れ、繊細な色の世界を見出し、その豊かな情趣を大切にしてきました。それらは、多くの絵画、染織物、陶芸、詩歌、

文学として、生活や文化の中に深く息づいています。

例えば、今年のNHKの大河ドラマ『麒麟がくる』の衣装はとも色鮮やかだと思いませんか。戦国武将達は、極彩色に満ちたきらびやかな彩を好んだと言われています。安土桃山時代の代表的な色として、豊臣秀吉などがよく着ている陣羽織の朱色があります。緋の中でも特に強い黄みがかつた朱色で、猩猩緋という名前がついています。この猩猩緋という色は、室町時代後期からの南蛮貿易によりもたらされた毛織物の中でも、とくに羅紗に多く見られました。猩猩とは、龍や麒麟などと同じく中国の伝説上の生き物で、人に似た顔、子供のような声、鮮やかな赤い体毛を持ち、体つきは犬や猿に似ています。その血はとても赤いとされ、そこから猩猩緋という色名が誕生したそうです。戦国武将達は、このきらびやかな色を好み、戦場での意匠を競っていたのでしよう。

歴史の流れの中でつけられた和色の名前は、美しく風雅です。私たちのまわりにあるさまざまな色にも、歴史や由来があると考えると、楽しくなりますね。

### 公民館活動の

### 不易と流行



塚田 常昭

清水守公民館 長ご退任後、四

月から公民館長に就任しました。塚田常昭と申します。どうぞよろしくお願いたします。

新型コロナウイルスが世界中で猛威をふるっています。4月17日に全国の都道府県に発せられた非常事態宣言は、5月31日まで延期されました。まだまだ予断を許さない状況であります。今後の動きを注視しながら、引き続き新型コロナウイルスの感染防止に努めていかなければなりません。

新型コロナウイルスの感染拡大は、医療・経済・教育など多方面にわたり影響を及ぼしています。坂城町においても、予定されていた行事が次々に延期や中止という事態になっています。また、中止にならなかつた行事も、時間を短くしたり、参加者を限定したりするなど、さまざまな工夫を凝らして規模を縮小して行われています。

規模を縮小して行事を行う時、前年度の内容を踏襲することはできません。何が大切なのか、何を中心に行なつたらよいかを考えます。行事の中で一番大切にしなければいけないこと何なのか、もう一度吟味する必要があります。

『不易流行』という言葉があります。松尾芭蕉の俳句への考え方をまとめた書物『去来抄』の中に書かれていた「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」という一節がもとになつています。解釈には諸説ありますが、「俳諧には、不易（永遠に変わらぬ本質的な感動）と流行（ときどき新味を求めて移り変わるもの）とがある。不易の中に流行を取り入れていくことが不易の本質であり、また、そのようにして流行が永遠性を獲得したものが不易であるから、不易と流行は同一である」と考えるのが俳諧の根幹である。」という説があります。

どんな時代にも通用する古典的な考え方や、時代によって新しく生まれる価値観を結びつけることで、はじめて良いものを作ることができます。時代の変化に対応するには、「不易」と「流行」のバラ

ンスをとることがとても大切になります。

公民館活動の「不易」とは、地域の皆様が「つどう」「まなぶ」「むすぶ」ことにあります。まさに地域の皆様のコミュニケーションをはかることだと思えます。しかし、今は新型コロナウイルスの感染防止のために、コミュニケーションをはかることが難しい時でありま

### 退任のご挨拶

### お世話になりました



清水 守

色とりどりの花が咲き誇っています。毎年の風景なのに、新型コロナウイルスに悩まされている今年は、その風景がいとしく感じられます。

二年間務めさせていただきました坂城町公民館長をこの三月に退任いたしました。

町の公民館規則に「町民の教養の向上、人権思想の高揚及び健康の増進を図り、生活文化の振興に寄与する」と公民館の目的が述べられていますが、館長としてどのくらい貢献できたか恥ずかしい限りです。

スポーツ大会や町民運動会などでは、大勢の人が参加し楽しんでいただけよう、二十七分館の役員さんに大変ご協力をいただきました。文化祭では、地域の皆さんに様々な分野の作品を出品していただき、一つのこと打ち込むことの素晴らしさを感じるとともに、「とても楽しく充実した時間を過ごさせていただきました」という来館者の皆さんの感想に元気をいただきました。文化講座では、演奏の音や会話の声を通し、受講生の皆さんが熱心に学ぶ姿が伝わってきました。

公民館活動に関わる中で、皆様から助けられたことや学ばされたことの方が多く、人と人とのつながりの大切さをあらためて実感しました。すべての皆様に感謝するとともに、町公民館活動のさらなる発展をお祈りいたします。

### 5000字リレートーク

### 私にとつての音楽

坂城町出身 青木みのり

大学時代、オーケストラでヴィオラを担当していました。コンサートホールを飛び越えて、ショッピングモールや家具屋さん、レストラン、病院、小学校など色々な場所で演奏させていただきました。その中では弦楽四重奏やピアノでの演奏機会も数多くありました。耳を傾けていただいた方から「感動したよ」「ありがとう」と声をかけてもらえた時は、心から音楽をやっているよかったですと感ずる瞬間の一つでした。

今は、県内の中学校で音楽の教員として吹奏楽に携わっていますが、一生懸命やっていると、意識がコンクールのためとか上達するための音楽になりがちです。私も坂中吹奏楽部の一員だった時、本気で頑張ったのに、思うような賞が取れなくて悔しい思いをしました。



次は藤岡 慧さんです。

## お知らせ

### 坂城町公民館文化講座

令和2年度文化講座の受講生を7月の開講に向け募集します。初心者を対象とした講座ですので、お気軽に参加してください。なお、複数の講座の受講もできます。

- NEW 季節の郷土料理
- NEW 詩をむ
- 茶道 (裏千家)
- 茶道 (表千家)
- 短歌
- 俳句
- コーラス
- 書道
- 木彫
- 陶芸
- 絵画
- 古文書
- 盆裁

申込 現在受付中 ※年度途中からの受講も受け付けます。  
 申込場所 文化センター内、坂城町公民館（2階）※申込書は、公民館にあります。  
 受講料 1人1講座につき受講料2,000円  
 開講式 7月1日(水) 午後7時00分～ 文化センター大会議室  
 ※講座の進め方などの打ち合わせを行いますので、必ず出席してください。  
 その他 講座の詳細は「まなびの玉手箱」をご覧ください。  
 問い合わせ先 電話 82-2069 (町公民館)



### キッズスポーツ

軽運動や楽しいゲームなどで基礎的な身体づくり、コミュニケーションづくりをする講座です。

申込開始 6月1日(月)から開始  
 期日 7月1日～3月3日 毎週水曜日(年間24回)  
 午後4時30分～5時30分  
 会場 文化センター体育館  
 指導者 長野体育指導センター指導員  
 対象 4・5歳児  
 受講料 12,000円 定員 30名

### リトミック教室

音楽(リズム)を用いて人間形成に欠かせない「社会性」、「創造性」、「感受性」を育てる楽しい講座です。保護者と子どもで参加してください。

申込 現在受付中  
 期日 7月1日～2月24日 毎週水曜日(年間33回)  
 午前10時～11時30分  
 会場 文化センター大会議室  
 指導者 中沢敏江さん(リトミック研究センター特別講師)  
 対象 1歳半～3歳児とその保護者  
 受講料 6,400円 定員 20組

# 令和2年度坂城町公民館事業スタート!

春が来て新年度の公民館活動がスタートしました。  
本館専門部のみなさん、分館役員のみなさんを紹介します。一年間よろしくお願ひします。

## 分館役員のみなさん

(敬称略)

分館	分館長	副分館長	文化部長	体育部長	広報部長
鼠宿	池田 隆	小宮山 豊	長塚 幸二	小嶋 隆夫	渡邊 克彦
新地	細田 厚	沢崎 不二男	吾妻 聖臣	横山 弘治	藤森 洋充
金井	三井 宰喜	青木 昌也	柳沢 実	青木 英一	塩入 重信
入横尾	宮下 守	高山 研二	小山 博史	宮下 知徳	浅井 翔伍
町横尾	中村 幸彦	宮下文和	中村 雄志	小松 佑二	堀内 哲
泉	宮下 信佳	小宮山 吉春	竹内 一久	小宮山 吉春	瀬在 正
中之条	丸山 孝夫	中島 正弓 橋本 真	塚田 登勢子	中嶋 良三	滝沢 美智子
四ツ屋	矢島 良男	富山 澄良	深町 義信	寺澤 裕一	阿藤 晃士
戌久保	森 一美	内山 修一	宮下 英敏	降旗 雅一	宮下 英敏
御所沢	滝沢 孝男	古沢 好一	滝沢 美佳	助川 朋廣	滝澤 和子
田町	五十嵐 康志	水野 弘子	今井 幹矩	米山 智裕	小宮山 栄子
横町	芝田 宏靖	佐藤 准一 中沢 秀	丸山 俊雄	大日向 進也	宮坂 龍也
込山	下地 章夫	中村 和仁	伊藤 浩司	小林 利史	小宮山 崇
立町	山崎 正治	春日 邦博 青木 秀雄	中澤 裕一	前山 康彦	塩入 基司
旭ヶ丘	山崎 晃一	池上 正桂	上村 やよ江	石倉 謙一	宇田川 靖正
南日名	砂田 繁	小宮山 泉 笠井 秋勇	小宮山 岩夫	春日 敦	小宮山 岩夫
北日名	西沢 和吉	中沢 千 柳 勇雄	西沢 滋	鎌倉 賢	柳澤 勇雄
日名沢	西沢 敏	伊藤 利幸	瀧澤 重章	中乗 誠介	伊藤 典子
大宮	富田 房雄	岡部 毅	古谷 哲	宮崎 進二	松岡 今朝志
新町	望月 暁	磯野 真	富岡 光男	市川 恭平	黒岩 隆
坂端	高橋 憲彦	丸山 真哉	高橋 昇	高橋 光博	高橋 祐次
苅屋原	小出 正紀	千野 修	千野 修	小出 真司	千野 義夫
網掛	金子 敏夫	荒川 正 大井 卓	塩野 入賢	浅野 井直	宮崎 正剛
上五明	柄沢 満則	細田 充 塚田 貴彦	関谷 義雄	塚田 武志	宮川 美佐枝
上平	白戸 均	滝澤 悦子	平林 睦子	大橋 勉	甲斐澤 文人
小網	小島 俊二	太田 好 友	太田 好 友	吾妻 敬二	塩野 義勝
月見	藤巻 孝司	宮坂 信夫	小林 大二	湊 修	田中 健三

## 本館専門部員のみなさん

専門部は、町公民館の事業をそれぞれ分担して企画立案し、公民館運営の要として活動します。

### 総務部

町公民館事業全体を検討し、推進します。

部長 柄沢 満則 (上五明)  
副部長 山崎 只彦 (中之条)  
細田 厚 (新地)  
芝田 宏靖 (横町)  
高橋 憲彦 (坂端)

### 文化部

文化事業を企画し、運営します。

部長 柳沢 実 (金井)  
副部長 深町 義信 (四ツ屋)  
長塚 幸二 (鼠宿)  
平林 睦子 (上平)  
小林 大二 (月見)

### 体育部

健康増進のため体育事業を企画し、運営します。

部長 小宮山吉春 (泉)  
副部長 石倉 謙一 (旭ヶ丘)  
降旗 雅一 (戌久保)  
小林 利史 (込山)  
春日 敦 (南日名)  
宮崎 進二 (大宮)

### 広報部

公民館報を編集し、発行します。

部長 宮崎 正剛 (網掛)  
副部長 小宮山栄子 (田町)  
堀内 哲 (町横尾)  
柳澤 勇雄 (北日名)  
塩野 義勝 (小網)

逆になぞるように台湾や中国を経由し、日本に入ると真つすぐ千曲川を目指して戻ってきた。  
渡りの際、コチドリは台湾やフィリピンで長く滞在し、その期間が数週間にも及ぶ個体もいた。これらの国はコチドリの秋と春の両方の渡りに共通して、重要な中継地であるといえる。

### ○渡り途中と越冬地での利用環境

コチドリが記録された地点と各国の土地利用図を重ね合わせて、長期間滞在した台湾や越冬したフィリピンでの利用環境を調べてみると、水田の割合が8割以上と圧倒的に高く、河川での記録はほとんどなかった。日本でも、7月以降、コチドリたちが水田で採食することは知られているが、繁殖地のような河川環境の利用がほとんどないという結果は衝撃だった。しかも、コチドリたちが台湾やフィリピンで過ごす期間

は半年以上もある。その間水田が採食にいい環境であり続ける、なんてことがあり得るのだろうか。……  
ほかの疑問もあった。いくつかの記録地点の土地利用が「養魚場」になっていたのだ。普段の観察や、前回紹介したセンサーカメラの調査から、コチドリのよいうな小さな鳥が水深の大きい養魚場で採食するとは考えにくかったからである。

された池は、コチドリが滞在した地域では「魚」ではなく、「二枚貝」の養殖が行われており、水を抜いて養殖場を休ませることもあるそうだ。現地を案内してもらうと、養殖中は深い池でも、水を抜くと湿地状になる様子がわかり(図3)、そこで多くのシギ・チドリ類が走り回って採食しているのを見ることができた。



図3 台湾西部の二枚貝の養殖場

と、そこには不思議な風景が広がっていた。日本だと稲作は年に1回の地域がほとんどであり、稲作地帯では生育時期がそろっていることが多く、刈り取り後の水田の表面は乾燥しているように思われる。しかし、台湾は亜熱帯・熱帯に位置することで、年に複数回の稲作が可能だからなのか、まだ青い稲が生育中の水田、黄色くたわわに実った水田、刈り取られた水田などがモザイク状になっており(図4)、湛水された水田もあちこちに見られた。これが、コチドリたちが長期間滞在しても湿地状の水田を使い続けられる理由だろう。コチドリたちの記録地点に占める水田の割合が高いことにも納得できた。見て回った湛水水田では、多くのサギ類、コチドリも含めたシギ・チドリ類が採食していた。越冬地であるフィリピンでも同様の状況が推測される。

### ○砂礫地と水田、両方大切

コチドリの渡りを追跡した結果、千曲川でコチドリが今後も繁殖できるために



図4 台湾東部の水田地帯。11月下旬でも稲が生育中の水田があり、刈り取り後の水が残っている水田にはコチドリの姿もみられた。

は、巣を造ることができると同時に、渡り経路上や越冬地における水田の維持が重要だということが見えてきた。そのためには、国内の河川で生物多様性に配慮した河川管理を進めるとともに、コチドリが訪れる複数の国々との協力が今後必要となるだろう。

笠原 里恵

千曲川に棲む鳥たち④  
「千曲川で繁殖する渡り鳥はどこから来る？」

ふるさと探訪は、千曲川の鳥についてシリーズで掲載しています。  
寄稿者は、笠原里恵さんです。



文責 笠原 里恵 (かさはら さとえ)

長野県生まれ。信州大学大学院教育学研究科に進学してから20年近く、千曲川に生息する鳥類の生態について研究を続けている。2019年4月より、信州大学理学部附属諏訪臨湖実験所に所属。今後は諏訪湖を中心に湖沼の鳥も研究していく予定。

○鳥たちの渡り

千曲川にいる鳥たちの種類は季節によって変わる。ハシボソガラスやシジュウカラ、ヒヨドリのように年中見られる「留鳥」もいるが、それ以外の渡り鳥たちが入れ替わるからだ。越冬していたカモ類やアイサ類が北の国に旅立った後、今度は南の国からコチドリやオオヨシキリなどの小鳥が繁殖、つまり子育てのために渡ってくる。鳥たちがわざわざ海を越えてまで長距離を移動するのはなぜだろうか？

近年の海外の研究では、資源が豊かな特定の地に留まることは、ほかの種との食物などの資源をめぐる過剰な競争を生じさせるので、それを避けているのではないかと、という説が提唱されている。資源が豊かでも競争が激しいと、結局得られる資源量よりも、それを得るためにかけた労力が

大きくなって効率が悪くなる。一方で、長距離の移動は大きな労力が必要とするように思えるが、競争を避けることによって結果的に得られる資源量と移動に費やす労力のバランス効率が良くなるという説である。

渡り鳥の多くは目的地までの長い旅路の中で、いくつかの地域を中継してエネルギーを補給しながら移動する。もし十分なエネルギーを補給できなければ、旅の途中で捕食者に襲われても逃げきれないかもしれないし、力尽きて息絶えてしまうこともあるだろう。

利用する中継地やその環境は鳥によって様々だが、世界中で人間活動が見られる昨今、彼らの利用場所は常に環境変化の危機にさらされている。それは千曲川にやって来る、もしくは旅立っていく鳥たちにも当てはまる。

○「コチドリ」ってどんな鳥？

千曲川で見られる渡り鳥たちが今後もあり続けるためには、彼らの千曲川での利用環境はもちろここにいるのか、どんな環境を使っているのか、を理解する必要がある。「千曲川に棲む鳥たち」の最終回として、地域に夏鳥として訪れるコチドリの渡り追跡についてお話ししたい。



図1 コチドリの成鳥(左)、砂礫地上の巣と卵(右)。

コチドリは、千曲川でよく見られるチドリ目チドリ科の鳥で、大きさは約16cm、体重は35〜45グラムである(図1)。植物のまばらな砂礫地の地上に巣を造って卵を産む。幸いにも、環境省のレッドリストに掲載されるような希少種ではないが、この種の繁殖場所となる河川などの砂礫地は、植物の侵入や繁茂によって全国的に減少しており、コチドリは将来的

な数の減少が懸念されている。世界的に見ると、コチドリの分布は広く、日本からヨーロッパまで、ユーラシアの広い範囲で繁殖が見られる。ヨーロッパで繁殖する集団は、アフリカのサハラ砂漠以南や中東、時にインドにまで越冬のために渡っていることが分かっ

ている。一方で日本を含めてアジアで繁殖する集団については、越冬地こそ中国東部やスンダ列島であることが分かっているが、どの国で繁殖した個体がどこで越冬するのかという、繁殖地と越冬地のつながりや中継地は不明であった。渡りにおける鳥の行き先を調べる方法として歴史が古いのが、1羽1羽の鳥を区別できる記号と番号の組み合わせがついた金属の足環を鳥に着けて放し、その鳥がどこで見つかったかの情報を集める標識調査である。ヨーロッパで100年以上前に始められたこの方法は、現在世界中で行われており、足環には放鳥された国がわかるように国名も刻印されている。日本の鳥類標識調査は、環境省の事業として行われている。

6月に岐阜県で確認された例があるのみだった。この記録から、日本で繁殖するコチドリが台湾を通過していることは予想されるものの、台湾が中継地なのか、越冬地なのかはわからない。また、台湾と岐阜県の間をどのような経路で移動したのかも不明であった。千曲川で繁殖しているコチドリは、どこで冬を過ごし、どうやって渡ってくるのか。千曲川の鳥たちの今後を考える上で、私はそれを明らかにしたかった。

○GPSロガーを用いた渡り追跡

近年は、鳥の追跡にGPS(全地球測位システム)が用いられることが多くなった。複数の衛星からの電波を受信して位置情報を計算するGPSは我々の生活にもすっかり定着しており、自動車のカーナビゲーション・システムなどはその代表例であろう。車が画面上の道路地図に正確に表

示される精度を思えば、鳥の渡り経路も相当正確に把握できそうである。GPSというと、スパイや探偵が追跡対象にこっそり取り付け、遠く離れた所からモニター越しにリアルタイムで追跡するような印象があるが、今回、コチドリの追跡に使用した小型GPSロガーは測位した位置情報がある限り蓄積していくタイプであった。つまり、コチドリたちの渡り経路のデータを得るには、個体にGPSロガーを装着した翌年以降に、同じ場所に戻ってきた

でも、鳥にとってそうとは限らない。一般に、追跡装置の重さは、鳥の体重の5%以内におさめることが提案されており、コチドリの研究でも、ロガーが個体の体重の4%以下となるようにできるだけ大きな個体を選んだ。

○長野県で繁殖するコチドリの越冬地と渡り経路

2017年に千曲市から長野市にかけての千曲川で繁殖した19個体のコチドリにGPSロガーを装着した。翌年は上田市から長野市までより広い範囲の河川

敷で、戻ってきた個体を探し、6個体を再捕獲して、ロガーを回収し、データを解析することができた。コチドリたちは日本の繁殖地を出発後、中国や台湾を経由してフィリピンに南下し、ルソン島からミンダナオ島まで、広い範囲で越冬していた(図2)。日本出発から越冬地に到着するまでの期間は早い個体で1か月程度、ゆっくりな個体では4か月程度で、移動距離は3000〜4000キロメートルだった。春の渡りでは、フィリピンの越冬地を出発後、秋の渡りを



図2 GPSロガーによるコチドリの渡り経路。実線は2017年秋の繁殖地(日本)から越冬地(フィリピン)への渡りを、破線は2018年春の越冬地から繁殖地への渡りを示す。秋・春の渡りともに中国や台湾を経由していた。フィリピンでは、ルソン島からミンダナオ島まで広い範囲で越冬していた(Kasahara et al. 2020を改変)。